

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】令和 4 年 3 月 25 日(2022.3.25)

【公開番号】特開 2021-132555(P2021-132555A)

【公開日】令和 3 年 9 月 13 日(2021.9.13)

【年通号数】公開・登録公報 2021-043

【出願番号】特願 2020-29986(P2020-29986)

【国際特許分類】

A 0 1 K 8 7 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)

10

【 F I 】

A 0 1 K 8 7 / 0 0 6 2 0 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 3 月 16 日(2022.3.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【 0 0 4 9 】

図 6 は、竿 A、竿 B の竿区間 1 6 - 1 8 (# 0 4 節) におけるひずみエネルギーの時間変化を示す。ここで、節とは各竿を 4 つの区間に分けた場合の各区間を指し、各竿の竿先から竿元まで # 0 1 節から # 0 4 節として区分けしている。各節も区間に分けられ、# 0 1 節は区間 1 - 6、# 0 2 節は区間 7 - 1 1、# 0 3 節は区間 1 2 - 1 5、# 0 4 節は区間 1 6 - 1 8 に分けられている。この区間は均等な間隔で分けてもよいし、竿先に向かうに従ってより狭い間隔で設けるようにしても構わない。図 6 の場合も、竿の変形がしやすい竿先の方がより狭い間隔で区間を設けると良好であるが、その他の方法でもよい。横軸は時間を、縦軸はひずみエネルギーを示す。開始時は竿は水平状態にあるため、魚を動かすのに重要な役割を果たす。図示のように、竿 B では、開始直後はひずみエネルギーが一気に増加するが、竿が起き上がってくるに従って、ひずみエネルギーを解放していく様子が示されている。竿 B では、節間の剛性のつながりが悪いため、一時的に魚の寄せが止まってしまう。他方で、図示のように、竿 A は開始直後はひずみエネルギーの蓄積は大きくないが、ひずみエネルギーの蓄積と解放のバランスがよいため、魚は安定して寄ってくることとなる。

30

40

50